



◎汐鳴祭体育の部が行われました

6月12日(土)本校の2大イベントの一つである、汐鳴祭体育の部が行われました。昨年度は、1学期の全国一斉臨時休業を受け、9月に延期されましたが、今年度は例年通りの1学期開催としました。

当日は、やや雲が多い天気ではあったものの、競技を行うには程良い気候となりました。残念ながら、今年度も新型コロナウイルス感染防止の観点から、保護者の来場は各家庭1名とさせて頂きました。

開会式の後、競技が開始されました。本校の汐鳴祭は、クラス対抗だけでなく、1年生から3年生までが縦割りでチームを作り、それぞれが水色・ピンク・オレンジの3色の色別で対抗戦を行います。そのため、学年を越えた交流や一体感が感じられ、各色を応援する声にも一層力が入っていました。

今年度も、全ての競技が「ソーシャルディスタンス」を意識したものとなりましたが、生徒と生徒の距離を取りながらも「観て楽しい」「やって楽しい」ものばかりでした。これは、汐鳴祭体育の部を運営する体育委員が知恵を出し合い、工夫して競技を考えたおかげです。

1年生は初めて、2年生は中堅学年として、3年生は最後の汐鳴祭体育の部として、それぞれ真剣にかつ楽しく、競技に取り組み、チームワークを高めることが出来ました。特に今年は、最後の「みんなでジャンプ」の競技において、2年生から100回という記録が出ました。その興奮が冷めない中で行われた3年生のジャンプでは、105回と二宮中学校の新記録が出て、最高の盛り上がりを見せました。

閉会式後は、優勝して満面の笑みでいる生徒、優勝できずに悔しそうな表情の生徒など様々でしたが、ほとんどの生徒が汐鳴祭を心から楽しんだ様子をうかがうことが出来ました。

コロナ禍のもと、気持ちを押し殺して生活することが多くになっていた生徒たちにとって、自分たちの力を思い切り発揮することができた汐鳴祭体育の部は素晴らしい思い出になったのではないのでしょうか。



汐鳴祭
体育の部



人文字の
二ノバード



◎「一人も見捨てられない学級集団・学習集団づくり」のための授業研究に取り組んでいます

今年度より本格実施となった学習指導要領では「主体的で対話的な深い学び」の実現が求められています。これは世界規模での課題に主体的に取り組む資質や能力を育成することを意味しています。

本校ではこの資質能力の育成を研究の大きな柱として「一人も見捨てられない学級集団・学習集団づくり」に取り組んでいます。具体的には、全ての生徒が主体的に授業に参加する「全員挙手」、先生が一方的に授業を行うのではなく、生徒自身が授業を創り上げる「相互指名」、さらには自分の意見を指を使って表す「ハンドサイン」など6つの手だてを用いた授業のあり方を研究しています。

6月4日には本校の研究主任の加藤教諭が、6つの手だてを用いながら3年生の英語の授業を行いました。「自分がおすすめる場所を相手に効果的に伝えるには？」という課題に対して、生徒たちは一人一人が自分の意見を発表し、その意見をつなぎながら、クラスで出た意見がまとまっていきました。

中学3年生でも多くの生徒が挙手をして発言していること、出された意見をもとに生徒同士が内容をつなげていったこと、またその意見を真剣に聴く様子の真剣さに、大変感心しました。

本校の研究はまだ始まったばかりですが、二宮町の小中一貫教育も視野に入れながら、未来に向かって自分の持てる力を十二分に発揮することが出来る生徒たちを育成していきたいと思います。



◎学校運営協議会の活動

令和元年度にスタートしてコミュニティ・スクールも今年度で3年目を迎えます。昨年度は新型コロナウイルスにより多くの活動が制限されました。今年度は、学校運営協議会の委員を「教育班」「設備班」「イベント班」に振り分け、それぞれが仕事を分担しながら、地域の方々との協働のもと、出来る活動に取り組むというスタンスでスタートしました。

6月の期末テスト前には教育班による寺子屋を実施しました。今回は、町内で同じくコミュニティ・スクールを進めている二宮高校の生徒に学習ボランティアの呼びかけをしたところ、本校の卒業生を含む3名の生徒が当日来校してくれました。その成果もあり、当日は20名を超える生徒が会場である図書室で学習を行いました。

同じく6月下旬には設備班による学校修繕活動も行いました。生徒たちから声が上がっていた、椅子の座面の修繕と、1階東の男子トイレのカーテンの設置行いました。当日はPTAの方の参加もあり、和気あいあいと作業を進めることが出来ました。

新型コロナウイルスの状況にもよりますが、7月には夏祭りのようなものも企画しています。

地域と学校が連携・協働して生徒の学習を支援する取り組みを進めていきたいと思います。

